

# 平成28年度～用／中学校美術科

- 題材別評価基準一覧
- 年間指導計画作成資料

## 目 次

- 題材別評価基準一覧
- 年間指導計画(A案:3学期制)(B案:2学期制)
  - A案:(第1学年)
  - :(第2学年)
  - :(第3学年)
  - B案:(第1学年)
  - :(第2学年)
  - :(第3学年)

### 年間指導計画内の記号

★:週2時間の授業計画による題材(無印は週1時間の授業計画による題材です)

■:題材名の色アミは、鑑賞中心に行われる題材です。

関:造形への関心・意欲・態度  
発:発想や構想の能力  
創:創造的な技能  
鑑:鑑賞の能力

[共]:[共通事項]との関連

開隆堂



## まえがき

平成24年に完全実施された現行の中学校学習指導要領は「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育成し「生きる力」を育てていくことを目指しています。この中の「確かな学力」では「基礎的な知識・技能」、「知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力」、「学習に取り組む意欲」の三つを挙げ、生涯にわたり学習する基盤をつくることを明確にしました。高度に国際化して価値が多様化する社会、その上変化のスピードが加速していくこれからの社会では、グローバル化による産業構造の変化、少子高齢化、自然環境やエネルギー問題等、さまざまな困難が我が国にも立ちはだかっているとされています。このような社会で活躍できる人材を育成することは、学校教育に課せられた大きな役割です。今後起こるであろう多くの未知の問題に対して、批評的に考え、分析し、豊かな発想力、創造力で解決していく力はますます必要になってきます。中学校美術科の学習指導要領解説には「表現の学習は、表したいことを基に、思考・判断し、表現する創造的な課題解決の学習そのものである」と述べられています。すでにあるものを能率よく大量生産していくのではなく、想像力を働かせて創造していく力を必要とするこれからの社会で、美術の学習は生きていくための力を育てる非常に大きな鍵になると言えるでしょう。

また、国際化が叫ばれている現在において、自国や他国の文化を学ぶことは大変重要になってきます。現行の学習指導要領でも「美術文化についての理解を深め」ることが教科の目標に掲げられています。国際理解のためには、まず自国の優れた文化を

理解し、しっかりと発信できることが21世紀を生きる全ての中学生にとってますます必要なこととなるでしょう。「美術科は文化に関する学習において中枢をなす教科の一つ」(学習指導要領解説)とある通り、美術を学ぶことには今後を生きていく上で大きな意味があるのです。ご存じの通り、我が国の美術教育はその目標に「感性を豊かにし、＜中略＞豊かな情操を養う」ことを謳っています。いわば人間が人間として生きるために必要な資質・能力を伸ばす非常に重要な面を担っている教科です。

これらの意味を踏まえた上で、生徒の学習意欲を高め、効果的な学びが行えるような年間指導計画を立てていくことが大切です。〔共通事項〕を念頭に置きながら、表現と鑑賞の二つの領域を一体的・総合的に学べるような工夫をすべきです。本資料では教科書を効果的に使いながら学習指導要領の趣旨に沿った学習ができるように計画してあります。

また、それぞれの学びは単発で行われるのではなく、学期、学年、中学校全体、さらに言えば小学校、高校及び社会での美術と連続して見ていく必要があります。時間軸的な縦の流れと領域や内容を考えた横の広がりとして年間指導計画を作成する必要があります。本資料は、このような考えを基に、教科書を活用して確かな学びが無理なくできるような標準的な例を2学期制、3学期制それぞれの場合を想定して提示しています。各地域、学校の状況、一人一人の生徒の実態などを考慮し創意工夫した指導計画作成の際の資料として、教科書とともに活用していただければ幸いです。

## 年間指導計画

### ■ A案 3学期制による年間指導計画

第1学年を「基礎期」、第2学年を「充実期」、第3学年を「発展期」として、3年間を見通し、無理なく学習できるような題材を設定している。各学年では1学期を「導入」、2学期を「展開」、3学期を「まとめ」とする3学期制の年間指導計画である。年間を通じて生徒の

興味・関心が高まるように、平面や立体、絵画・彫刻やデザイン・工芸といった題材を3学期を通じてバランスよく学習できるように配置している。本年間指導計画案における中学校3年間全体の学習の構成、及び授業時数の配分を表にまとめると次のようになる。

学期	週	第1学年	45時間	第2学年	35時間	第3学年	35時間
1学期	12週	基礎期・導入（図画工作科との関連）	12時間	充実期・導入	12時間	発展期・導入	12時間
2学期	14週	基礎期・展開	△24時間	充実期・展開	14時間	発展期・展開	14時間
3学期	9週	基礎期・まとめ	9時間	充実期・まとめ	9時間	発展期・まとめ（高校美術工芸・生涯学習との関連）	9時間
題材の構成	美術の学習への興味・関心を育てることを目的として、多様な学習を扱うようにする。		主体性や自主性を育てることを目的として、表現形式や技法を選択できる題材を設定する。		美術の学習のまとめと位置づけ、発展的な学習ができる題材を設定する。		
	我が国や諸外国の美術文化について学習する題材を系統立てて設定している。						
	表現と鑑賞を関連させて学習効果を高めるよう設定している。						

△第1学年の2学期は、14週のうち、第1週から第4週を週1時間の授業とし、第5週から第14週までを週2時間の授業を行うものとして計画している。

### ■ B案 2学期制による年間指導計画

第1学年を「基礎期」、第2・3学年を「充実・発展期」としている。第1学年では小学校の図画工作科との関連も考え基本的な内容から第2・3学年に無理なくつながるような題材をバランスよく配置している。また、第2・3学年では「充実・発展期」として、2年間の学びを考えて、美術の各領域の学びが段階的に充実し展開できるよ

うに計画している。各学期の期間が長い二学期制の特徴を生かし、それぞれの学期の中で平面や立体、絵画・彫刻やデザイン・工芸がバランスよく学習できるようにして、美術に対する興味を全員の生徒が持続するように考えた計画である。本年間指導計画案における中学校3年間全体の学習の構成、及び授業時数の配分を表にまとめると次のようになる。

学期	週	基礎期		充実・発展期			
		第1学年	45時間	第2学年	35時間	第3学年	35時間
前期	16週	基礎期・前期（図画工作科との関連）	16時間	充実・発展期Ⅰ	16時間	充実・発展期Ⅲ	16時間
後期	19週	基礎期・後期	△29時間	充実・発展期Ⅱ	19時間	充実・発展期Ⅳ（高校美術工芸・生涯学習との関連）	19時間
題材の構成	美術の基礎的な力を養うことを目的として、小学校図画工作科の学習との関連を考えた中学校美術の導入となる題材を設定する。		第1学年の学習を基に、表現や鑑賞の学習をより深め、より主体的な創造活動を行うため、2学年を見越した柔軟性のある指導計画を設定している。第2学年と第3学年との間でそれぞれ関連性が深い題材を設定することにより、無理なくしかもバランスよく学習を充実させさらなる発展ができるような題材設定とする。				
	我が国や諸外国の美術文化について学習する題材を系統立てて設定している。						
	表現と鑑賞を関連させて学習効果を高めるよう設定している。						

△第1学年の後期は、19週のうち、第1週から第10週までを週2時間の授業とし、第11週から第19週までを週1時間の授業を行うものとして計画している。